

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1 東)

事業所番号	0173700287		
法人名	有限会社ファニティ		
事業所名	グループホームSORA		
所在地	伊達市長和町609番地		
自己評価作成日	令和5年6月13日	評価結果市町村受理日	令和5年8月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_022\\_kihon=true&JigyosyoCd=0173700287-00&ServiceCd=320](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0173700287-00&ServiceCd=320)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部		
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階		
訪問調査日	令和5年7月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの出来ること、やりたいことを支援できるよう訴えがあった時にはその希望に添えるように努めています。家に帰りたいと要望があった時には、外を散歩しながら「今度娘さんに頼んでみましょうね」などと、納得していただける声かけを心がけています。また、過剰な介助はせず、出来ることは自分で…を心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は伊達市の西方向に位置している長和町の自然豊かな郊外にある2階建て2ユニットのグループホームである。敷地が広く、建物前には、広い駐車場と菜園があり、利用者の散歩や外気浴に最適である。玄関に入ると吹き抜けの大きな多目的ホールがあり、その左右対称にそれぞれ2階建てのユニットがある。リビングや食堂も広くゆったりしており、利用者は日中は殆どリビングで寛いで過ごしている。法人は、居宅介護支援事業所や通所介護事業所を市内で運営しており、長年の実績が評価され、平成29年に以前の運営会社から事業を引き継ぎ、当事業所を再開した。多目的ホールでは、コロナ前は認知症カフェやボランティアによる演奏会など催され、明るい和みのホームである。また、アイドル猫2匹が迎えてくれ、利用者の癒しの存在となっている。職員のケア向上にも取り組んでおり、認知症高齢者の事業所としてこれからも期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関を入ってすぐのよく見える場所と、各ユニットに貼ってあり、いつでも確認できるようにしている。	事業所の理念は、ホーム内に掲示し、パンフレットにも掲載して、利用者や家族にも周知するよう努めている。職員は、毎月全体会議やユニット会議で振り返り、職員間で共有して実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナウイルス感染症のため、認知症カフェも中止になっており、交流の場もなかなか持てずにいる。また近隣住民の高齢化もありますますます困難となっている。その中でも廃品回収や回覧板など少しでも交流できる様にしている。	コロナウイルス感染症による多目的ホールの開放ができず、認知症カフェなど地域との交流が出来ていないが、町内会の廃品回収や回覧板など近隣の交流は再開している。今後は外での焼き肉や夏祭りなど開催して、交流していく予定である。	以前の様に多目的ホールを地域へ開放して、認知症カフェなど開催し、地域との交流を積極的に推進することを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェは、コロナウイルス感染症の為に中止になっているが、再開に向けて取り組んでいきたいと考えている。また、運営推進会議は再開されたため近隣住民の参加も期待している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は再開され、入居者様のご家族の参加もあった。会議での報告や評価などは全職員と共有し、サービス向上に活かしている。	コロナ禍で、運営推進会議は書面会議開催であったが、6月より通常開催を再開している。家族や市担当者、地域の方が参加して情報交換や意見交換をして、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍で運営推進会議は出来ていませんでしたが、会議録を市担当の方に情報として提出していた。	運営推進会議に市介護保健係担当者が参加しており、情報交換や意見交換を定期的に行って協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部からの侵入を防止目的で内側の戸の施錠をしている。屋外に出たがる時は職員が一緒に出ている。	身体拘束廃止委員会を設置して、指針やマニュアルを整備して、3ヶ月に1回検討会を行っており、研修会も年4回開催して学んでいる。また、虐待防止委員会も年1回開催して、学びながら実践につなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会や全体会議を通じて虐待防止について話し合いや勉強の機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身体拘束委員会や全体会議を通じて権利擁護について話し合いや勉強の機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時にはご家族と十分に話し合い、不安や疑問を解消できる様に務めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が意見・要望があれば、運営推進会議録でお知らせするが、今のところ意見・要望が内。	ホーム便りと利用者個別のお便りを毎月作成し、家族へ報告している。玄関に意見箱を設置しているが、家族から意見や要望は、来訪時や電話等で殆ど聞き取り運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関して意見がある時は全体会議を開催し、その中で聞くようにしている。	毎月全体会議を開催し、ユニット会議や身体拘束廃止委員会、虐待防止委員会、災害対策委員会など各委員会も定期的に開催し、職員からの意見や提案を聞き運営に反映させている。また、月1回各ユニットのリーダー会議も行い、職員面談は必要時に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の勤務状況を聞き取り、賞与等に反映させるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外部からの研修はコロナ禍で特に行っていないが、質の向上のため全体会議の中で話し合いを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	市内のグループホームのネットワークが無いため交流はない。認知症実践者研修の他施設での研修も行われていない。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所直前に職員間で対応を話し合い、入所してからは本人の不安や悩みを少しでも解消できる様に傾聴し寄り添えるよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の疑問や不安にしっかり耳を傾け、何か変化があった際はすぐに連絡したり、面会の際に報告したりと信頼関係を築ける様に努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族様と話し合いをし、何が必要かを考え、居宅、役所などに対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に洗濯置みや、食器拭きなどをしたり散歩に行ったりと日々共に過ごす中で良い関係を築けるよう努力している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様から信頼して相談などをしていただける様に、色々な場面で報告や連絡をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルスで面会も制限されてはいるが、時間を決めて来客の方と会ったりドライブで馴染みの場所を訪れたりしている。	コロナ禍で、面会等は制限があるが、近隣のお花見や散歩などは都度支援しており、関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性を読み取り、孤立している方には職員が間に入ったりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所になる際は、看取りが多い為退所後は相談や支援には関わってはいない。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ本人の意向に添えるよう、日々の会話や生活の様子を観察し本人本位近づけるように努めている。	意思表示できない利用者が半数を超えており、困難な場合は、ひもときシートの活用と日常生活の表情などで思いや意向の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様の理解と協力のもと、聞き取りをし生活歴などを把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの一日の過ごし方や心身状態を把握できるように日頃からよく観察し、日勤者から夜勤者への申し送りや、職員間で些細なことでも報告し合っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族と職員間で情報ほ交換しながら現状に即した介護計画を作成している。	利用者毎の担当者制で、ひもときシートを活用して、本人や家族からの意見や要望を聞き、担当者会議を行い、情報の共有をし、現状に即した介護計画を作成している。見直しは3ヶ月毎に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録の中でも、日勤帯から夜勤帯、夜勤帯から日勤帯への申し送りは詳しく行い勤務していない時間の把握もできるようにし、職員間で情報を共有し介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	例えばご家族の対応が難しい入居者様には、往診も受けることができたりと、その時々生まれるニーズに対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は認知症カフェで歌や踊りを体験していたが、コロナウイルスにより中止になっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族が希望した場合、月2回在宅クリニックの医師の往診を受けることができ、その他急変時や体調不良時にもすぐに往診してもらっている。	利用者の殆どが協力医療機関による月2回の訪問診療で、以外の利用者は家族が受診対応している。訪問看護は隔週1回で、24時間体制の適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の往診時と訪問看護の際に、関わりの中でとらえた情報や気づきを伝え、適切な看護が受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ここ数年入院される方がいない。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	食事や水分が取れなくなってきた時には、ご家族に連絡し話し合いを行い職員間で共有し、終末期に入った場合にはご本人の苦痛のないよう穏やかに過ごせるよう支援に取り組んでいる。	重度化や終末期の対応は、入居契約時に説明している。食事が出来なくなると医師より家族へ説明し、看取りの意向の場合は、計画を作成して同意を得て、主治医と看護師、職員が連携してチームで支援に取り組んでいる。昨年は3件取り組み、職員全員が看取り経験者となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行ってはいないが、急変時や事故発生時の対応は職員間で共有している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に必要な想定外の避難訓練を行っており、避難できる方法を全職員が身につけている。しかし、地域の「協力は高齢化のため実現していない。	火災の避難訓練は、備蓄や備品も整備して、年2回定期的に実施しており、噴火の避難訓練も年1回行っている。感染症対策のBCPも作成しているが、自然災害のBCPが作成中である。	自然災害のBCPが作成中な為、地域の協力体制の構築も含めての完成とそれに基づき訓練を行う事に期待したい。

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格や性格、暮らしてきた背景、認知症の症状に合った分かりやすい言葉選びや対応をしている。	人格の尊重とプライバシーについては、全体会議でスピーチロック等の研修を行っており、声掛け等は特に注意して対応するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の症状により、上手く自分の思いや希望を伝えられない方にも、日々の様子をよく観察し少しの変化にもすぐ気付けるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	職員主体ではなく、入居者様主体の生活になるように、その人らしい暮らしができるよう、会議や職員間で常に話し合っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容師が来た際には好きな髪型をリクエストしたり、衣類の選択ができるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの食事の好みを理解し、毎日の献立に活かしている。また、後片付けが好きな入居者様には積極的に頼みコミュニケーションの場として活かしている。	毎日1食だけ食材の外部委託で、他は職員が献立から調理まで担当しており、利用者は、茶わん拭きやテーブル拭きなど手伝っている。トロミ食が増え外食が困難になっている。行事食は、焼き肉や折詰弁当、たこ焼きパーティーなど楽しい食事の支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量はその人その人に合わせ配膳し、水分がなかなか自分から進まない方には無理のない範囲声かけをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食ご口腔ケアを行っており、必要な方には仕上げ磨きや、口腔シートでの介助を行っている。その際、口腔内の状態も観察し異常がないかチェックしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自分からはなかなかトイレへ行かない方には、その方にあった排泄パターンを把握し時間でトイレ誘導を行っている。	排泄の自立している利用者は半分位だが、利用者個々の記録簿から排泄パターンを把握して、一人ひとりの状況や時間を見ながら声掛け誘導して、トイレでの自立した排泄に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便パターンを職員間で共有し、マイナスの日が続いた時は、主治医に処方されている緩下剤を服用している。また、毎朝バナナセーキや牛乳を飲んでおり便秘の方はあまりいない。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	拒否があった場合は日を改めて入浴したり、一人ひとりに合わせて入浴を楽しめるようにしている。湯船に浸かるのに拒否があった場合はシャワーとかけ湯で対応している。	浴室には窓があり、停電時や災害時に有効である。入浴は週2回で、西棟は午後からで、東棟は午前から対応している。拒否の利用者には無理せず個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせた臥床への声かけをしたり、全介助の方も午前午後と横になれる時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方が変わった際は職員間で共有し、変わった後の変化を詳しく記録し次回の往診時に医師に報告している。また、個人ファイルの服薬情報を各自把握できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌が好きな入居者様には歌の時間を設け、皆でお菓子を作ったりと気分転換の場を設けている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春には桜、秋には栗の木が近くにあるため皆で見に行っている。また、毎日の中でも天気の良い日は散歩に出かけたりしている。しかし、普段は行けない希望の場所にはなかなか出かけることは出来ていない。これからはドライブなども以前のようにしていこうと考えている。	近隣の散歩や外気浴、春の桜や秋の栗の観賞など天気の良い日には支援をしている。コロナ禍で、集団での外出行事が出来なかったが、今後はドライブなど再開していく予定である。	コロナ禍で、外出行事が出来なかったので、今後は、運営推進会議などで家族の意見も聞き、家族と一緒に掛ける外出行事も期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失やトラブルを防ぐため、お金の所持は行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をしたり、電話にでたりできるように支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は居心地よく過ごせるように自宅のような雰囲気を出せるよう努力している。また、温度や湿度にも気を配り過ごしやすい環境に配慮している	共用空間は、玄関に入ると吹き抜けの多目的ホールで、天窓があり明るく広々として、体操やレクリエーションに活用している。左右にユニットがあり、食堂やリビングも広くゆったりしており、採光や風通しもよく、整理整頓されており、利用者は寛いで過ごしている。また、ホールや廊下にはエアコンも整備して、適切な温度や湿度管理も行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになりたい時には、好きな時に自室に行ける環境であり、気の合った方同士やそうでない方などテーブルの配置を工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの家具や家族写真など自由に持ち込んでいただき本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は広く、一間ほどの大きな収納とベットが設置されている。利用者は使い慣れた家具や馴染みの物を持参して居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所には張り紙をし、建物内部に危険がないように気を配り、過剰な介護にならないように努め、自由に過ごしていただき自立した生活が送れるように工夫している。		